

健康生きがいきづくり・とちぎ

http://www.f4.dion.ne.jp/~t-ikigai

～ 創刊号 ～

栃木県健康生きがいきづくり協議会
平成 17 年 2 月 1 日 発行
発行責任者 蒲谷英昭
編集責任者 青木喜一
事務局(増淵) :0282-86-1049

この度、栃木県健康生きがいきづくり協議会の会報「健康生きがいきづくり・とちぎ」を発行する運びとなりました。



会長 蒲谷英昭

新年おめでとう御座います。今年もよろしくお願い致します。

かねてからの願いだった会報が出されることを大変喜んでいました。会員相互のコミュニケーションの場として大いに活用されればと思っております。それぞれが日常やっていると、いいなと思った情報などを同じ目的で集まった仲間提供の場として有効に生かされればと思っております。

高齢化はますます進み私たちの健康・生きがい活動は社会的ニーズとなつていきます。ボランティア活動は「やる気直し手弁当」と言われます。自分自身の「やる気」がキーとなり「やりがい」は無限に広がっていくのだと思います。

既刊のホームページとともにこの機関紙を誇りを持って、自信をもって大事に育てていきましょう。

副会長 友利実則



三年前は全くの初心者として教わる立場だったのが、今では人に教える側になって自

分に正直言って驚いている。町の公民館に「リコーダー教室」の企画を持ち

込み、ちやっかり自分も受講生として習い始めたのが三年前。そして今春隣の市に同じ話を持ち込んだが、なぜか厚かましくも自分が教えることになつてしまった。受講生は老若男女さまざまだが、ともかく、楽しく「モーター」に続けている。例えば、学ぶ時も教える時も行政に話を持ち込んだのは自分ひとり。それでも話ほとんど拍子に進んで実現した。



副会長 田代利雄

この度、協議会会報が創刊の運びとなりました。会員同士の情報交換の場が拡大することは、協議会活動の輪が広がることであり、まことにご同慶の至りと存じます。

健康生きがいきづくりアドバイザーの活動は、第二の人生の生きがいきづくりが基本であり、アドバイザーの組織活動についても、まず自分達が楽しくなくてはいけなないと私は考えております。そのためにもこの会報が機縁となり、アドバイザー全員が仲間としてお互いに助け合える強い絆が結ばれればと思います。

当協議会会員のコミュニケーションづくり、対外広報活動等本紙に寄せられる期待は大きく、今後の更なる発展を祈念する次第です。

事務局長 増淵 博



宮仕えを卒業し世話になった方々への恩返し方々、落花生播種の開発を始め

延々と試行錯誤を重ねて一年四ヶ月ちよつとした落花生の動きが目止まり、それがヒントで試作機が出来た。世に出す前に自力で特許申請をしようと考えていたところ、その道の大家がメンバーの中にいました。ご指導をお願いしたところ快諾い

ただき、早速たたき台を書いて見てもらったところ、さすがその道の専門家わずか一時間半ぐらいで、全体像をつかみ、的確に請求項の骨格やその考え方をアドバイザーしてもらった。それでも悪戦苦闘の末、約二ヶ月かけてようやく電子申請を行うことが出来た。当協議会も毎年養成講座を開催し新しい健康生きがいきづくりアドバイザーが誕生しているが、長い人生を歩んできたメンバーの知識や経験を、仲間同士という意識で気楽に教えたり教えられたり出来る健康生きがいきづくりアドバイザーにまたその協議会のメンバーに感謝

協議会の歩み

その一 増淵 博

栃木県健康生きがいきづくり協議会は、平成十一年五月九日(日)に開催された総会で正式に発足しました。

それまでは、資格は取つても「県内にどんな仲間がいるのか」、「皆がどんなことをしているのか」全然わからない状態であった。他の県では協議会を結成し活動しているところもあるが、本県にはない。これは資格をとつても身動きが出来ない。そんな思いは当時資格を持つている人の共通した悩みだったのでしよう。そうこうしている時、高野前会長から「健康生きがいきづくりアドバイザー情報交換会のご提案(平成十年四月二十九日付)」というタイトルで手紙が来た。早速賛成の返事を出したが、その後の動きが見えない。十月頃だったか、恐る恐る高野事務所を訪ねてみた。手紙の返事が思うようになく、動けない状態だったのでしよう。そこで三人でも五人でもいい、協議会を立ち上げるべく、県内で働いている主な人を訪ね、意見の集約を試みて見ましようと言つて別れた。先ず、当時全労災の足利支所に勤務していた板橋さんの事務所を、足利に出かけたとき何度か訪ねた。多忙のようだが、今日は出張です」となかなか面会できなかった。県北の方はなかなか出かける機会がなかったので遅れていたが、年も明けたある日友利さんから手紙が来た。早速出席する旨返事をしました。

続く



板橋保夫

十月二十四日
(日)娘が結婚した。
晴天に恵まれて、多

くの友人や職場の仲間に祝福されて、教会で結婚式を挙げた。そして披露宴、とうとうそのときがきた。娘は二十六年間の感謝の気持ちを精一杯手紙に託した。いかにも女の子らしい優しい素直な手紙だった。こらえきれずにかみさんが泣きだし娘も熱い涙を流しながら、懸命に手紙を読んだ。

しかし父親の私は泣かなかった。心の中ではボロボロ涙を流しているのに、平然としている自分。素直じゃない。実に可愛くない人間だと思った。

本当に強い人間とは、人前でも涙を流せる人間だと思ふ。そんな人間に私はなりたい。



チャリティパーティーのひとコマ(アロハ・レイ・アイランダーズ)によるハワイアンバンド演奏。

マロニエ会 第四回チャリティパーティー
健康生きがいづくりの集い
昨年十月三十一日、盛況に開催し生きがいづくりの輪を、大きく広げました。



君 良秀

新米「健康生きがいづくりアドバイザー」として、この一

年先ずは勉強と、シルバー大での増淵さんの講演、老人クラブでの近藤さん、田代さんの講演を夫々拝聴したり、マロニエ会のチャリティパーティーに参加したり、更には、拙いながらもシルバー大の講義の一部と養成講座の一科目を担当させていただいた。

定例会はもとより全国大会にも参加しました。二年目からは、この経験を基に、自分に適した活動の姿を見つけ出したいと思っている。



伊藤康子

早いもので、マジに勉強した養成講座の三ヶ月、そして

楽しい山梨の合宿研修を受けて一年が経とうとしていきます。

栃木健生の仲間入りして、先輩方の講演を見学させて頂くと同時に並行して、見切り発車で幾つかの話させて頂いて頂くと破目になってしまい、慌てふためきました。今思うに、

お陰さまで、必死で勉強したことにより、情報も知識も広がりまし
もつともつと先輩方

からも勉強させて頂きながら、私自身もいろいろの事に挑戦していきたいと思つてます。

蒲谷英昭

子曰く、「七十にして心に従う」とあります。古希を迎えましたが、ドッコイとて孔子さんのようにはいかなない人生です。

ウォーキングをしながら自分なり的小宇宙旅行を楽しんでいます。路地にたつお地藏さまに立止まって、おかげさまで元気です。また来れますように」となにも飾らない素朴な自分を感じながら素直に頭を下げますが、人間さまとなる「マアいいか」と知らん顔。これではいけない・・・。

人と爽やかに向き合い、めぐつてきた現在を。そしてこれからはハメをはずさずにはやさしく過ごしたいとおもつ今日このごろです。

餘野チエ子

十一月三日今市市のそば祭りに行き事故にあり、目下療養中。生まれ変わったつもりで今後の人生頑張ります。よろしく願います。

- ・ 天職と思ひし書店閉ずる日の
- ・ 来たるも時代逆らはず生きむ
- ・ 閉店セール終りて眺む月まろし
- ・ この地に生きて二十三年
- ・ 異郷にて車にはねられ入院す
- ・ 厚き看護に我取り戻す
- ・ 助けられ生きていることに感謝しつゝ
- ・ 動かぬ身体と格闘の日々



平成 16 年 12 月 19 日(日)栃東日本において懇親忘年会が行われました。体のつばの実演や手品・健康体操・クイズなどがあり、楽しいひと時でした。



青木喜一

新年を迎えるといつも、今年こそは...と、何かの目標を考えるのですが、毎年これと言つて達成出来

来たものがありませんでしたが、昨年は違いました。まず、「健生アド」の資格を取得し、シルバー大学を卒業後、「栃木県情報ボランティア」講座を受講し登録年末には、「シニア情報生活アドバイザー」を取得、全ての予定をクリア出来たのです。「やれば出来る」の信念での結果だと思ひます。

そこで今年は何、な、なんと無謀にも、沖繩の「三線」に挑戦！、見るも触るも初めてなものですから「やれば出来る」とはいかないでしょうが、買ってきてしまったのです。

編集後記

ようやく創刊号の発行にこぎつきました。細く長く続けて行きたいです。療養中の餘野さん、早期の回復をお祈りいたします。(田代美・増淵・青木)